

通信教育部メディアスクーリング
経済学（2017年度撮影）

経済学

（資本と利子から経済を考える）

第1回

法政大学 法学部

水野和夫

第1回目と第2回目のテーマ

・・・資本とは

- ▶ フィッシャーの資本
- ▶ マルクスの資本
- ▶ ケインズの「利子生活者（資本家階級）の安楽死」

資本主義とは何か



「特定の人」が**資本**をよりたくさん
集めるシステム

「海賊資本主義」、「ショックドクトリ
ン」(惨事便乗型資本主義)

資本とは

- ▶ ①近代経済学の資本 ・ ・ ・ 生産力
(生活水準の向上)
- ▶ ②マルクスの資本 ・ ・ ・ 永続的に循環する一個の過程 (G-W-G')
- ▶ ③会計学の資本 ・ ・ ・ 投資家保護
- ▶ ④商法の資本 ・ ・ ・ 債権者保護

フィッシャーの資本・・・資本と所得 (GDP) の関係

▶生産力・・・工場、店舗、オ
フィスビルなど

フィッシャー（1867-1947）の「資本と所得」

『アーヴィング・フィッシャーの経済学』（中路敬、2002、日本経済評論社）

第3章 資本と所得：展開軸の設定

第1節 概念の定義

1894年夏のド
ライブ
(p.49)

貯水量と流水量

資本と所得

私〔フィッシャー〕は、水が出入りするようになっている濯蹴用の水桶を見て突然思いついたのです。それは、資本と所得との区別をはっきりさせるのに必要な基本的な違いが、その水桶に入っている水とそこに流出入している水との違いと同じであるということでした。（L. N. Fisher[1956] p.123）

[1956] p.123)

つまり、彼（フィッシャー）は、資本と所得の両概念を明確にするためにストックとフローを区別するという着想をえた。

「富」とは、人間によって所有される物体

資本概念の曖昧
さ（p.50-51）

経済学の諸概念のうち資本ほど基本的でありながら、曖昧なものはない。

賃金や生産、利子が資本とどのような関係にあるかをめぐる論争は、長くうんざりするほどであり、その論争のどれもが資本それ自体に関する長く不満の残る論争をともなってきたのである。

これら二種類の論争が、不可分であるということはあきらかである。資本という用語が厳密に何を意味するのかを把握する前に、資本について信頼にたる学説を打ち立てようとすることは、エネルギーについての明確な考えもなしにエネルギー保存の理論の構築を要求することと、理屈上、同じである。（Fisher[1896b] p.509）

「富」の概念
（p.53）

本書では、「富」という用語を人間によって所有されている物体を意味するものとして用いる。（Fisher[1906] p.3、訳1頁）

富とは、物体であると同時に「所有されている」

「物体」と「所有」 (p.54)

この定義によると、富とはまず「物体であること」 (Fisher[1906] p.8、訳10頁) を含意し、それと同時に「所有されている」ということをも合意する。つまり 具体的な「物」と抽象的な「所有権」 という **二面性** において「富」概念を規定している。

・・・富と所有権は、相関的な用語である。富は所有される具体的なモノである。他方、所有権は所有を表す抽象的な権利である。この二つの概念は互いに含意しあう。(Fisher [1906] p. 22、訳 34頁)

フィッシャーは、富を所有するとは「それを用いる権利を持つことである」(Fisher[1906] p. 18、訳 27頁) と「**所有権**」**概念**を説明している。

したがって富を「所有」するということは、将来における富の「消費」や「販売」をふくめた「使用」を期待して、つまり将来の欲望の充足を見越して、現時点において「富」を所有するということであると理解できる。

(Fisher[1906] p. 22、訳 33-34頁)

将来、収益をもたらさない物体は「富」ではない

収益をもたらさない物体は「富」ではない

実際、将来において、満足や収益をもたらすことがまったく「期待」されないような物体は「所有」されず、したがって、「富」たりえないのである。

フィッシャーは、使用の「期待」という所有者の主体的要因を考慮しつつ、「人間の経験の重大な“独立変数”である時間」（Fisher [1906] p. 51、訳78 頁）を軸として「富」概念を展開してゆく。まず、資本と所得の定義である。

資本と所得の定義

（p.55）

ファンドとフローの区別は、理論経済学で様々な応用できる。中でもっとも重要な応用は資本と所得とを区別することである。しかし、資本と所得はファンドとフローだけで区別できるわけではない。他にも重要な区別があり、それは資本が富であり、所得は富がもたらすサービスであるということである。それゆえ次の定義がでてくる。ある時間の一瞬に存在する富のストックが資本と呼ばれる。サービスのある期間を通じたフローが所得と呼ばれる。（Fisher [1906] p. 52、訳79-80 頁）

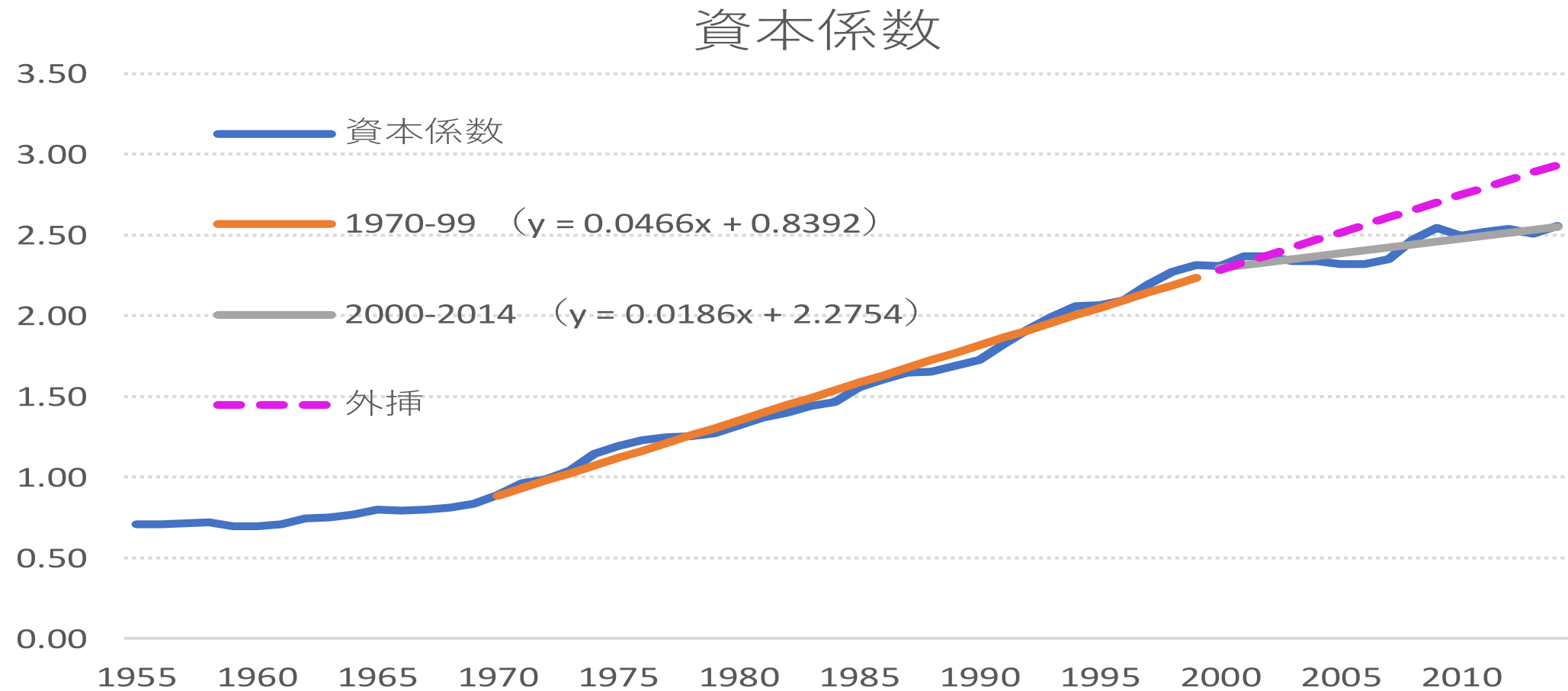
二重の区別

二重の区別

つまり資本と所得の定義には、時間要素の導入＝ストックとフローの区別にくわえ、『数学的研究』の付論ですでに示唆されていた有形の富それ自体とそれがもたらす無形のサービスという**二重の区別**が必要であるということである。

国内の鉄道は資本である。その鉄道が生み出す輸送や輸送を販売することから利益は、その鉄道が生み出す所得なのである（Fisher [1906] p.53、訳80頁）。

資本係数 = 資本ストック / 実質GDP



(注) 資本係数 = 資本ストック / 実質GDP

(出所) 内閣府「民間企業資本ストック」

フローとストックの関係

資本係数＝資本ストック/実質GDP

資本ストック(K):ストックの概念

実質GDP(Y):フローの概念

資本係数はストックとフローの比率
⇒資本係数は上昇傾向がある。

資本係数の逆数＝実質GDP/資本ストック

⇒資本生産性(Y/K)

(労働生産性=Y/L)

L:労働投入量

生産関数

$Y = F(K, L)$

生産性＝投入量(生産要素、KとL)あたりの生産物(Y)